

第八章 渡川の改修

昭和十年の大洪水

昭和十年（一九三五）八月二十七日、奄美大島を襲った颱風は針路を北東に変え、二十八日午前六時その中心は宮崎市の東方海上にあって七二八耗を示し、極めて緩慢な速度で北北東に移動し漸次方向を東寄りに転じ播磨灘に出たため、中村町も暴風雨となり大洪水に襲われるに至った。

八月二十五日時々小雨、二十六日も時々雨で東風や強く吹き、二十七日大雨となったけれども雨間があって洪水を予想する程のことはなかったが、北東の風力は次第に加わり、夕方に至って風雨ともに烈しくなり、両川は急速に

氾濫して交通杜絶した。二十八日はいよ／＼風雨猛烈を極め午前中に電信電話も不通となった。両川の水位は刻々に上昇し渡川具同量水標は午前七時三米七〇を示し、爾後一時間最大一米二二を増し、二十九日午前一時最高一米二米〇七、後川大用寺量水標最高一〇米三一に達した。

浸水は二十八日正午、後川沿岸の耕地を呑み不破県道に迫った。午後二、三時ころには宮田小路、南京町、新町方面を襲い、五、六時までには築地を残して全町を浸水した。その水勢は物凄く天神橋筋をはじめ、東西に通じる街路は奔流となって歩行はもとより救助船の往復にも困難を極め、荷揚げの暇も与えず夕方には既に全戸の床上を浸し、低所は階上数尺にも及び両川岸の百笑、不破、右山、角崎方面は大海のようであった。四万十川鉄橋々台の頂上を洗う濁流を築地坂を越し、後川堤防は余すところ一メートル足らずの危機に類した。実に中村町洪水中の最大なもので、浸水と云うよりは寧ろ沈没と云う言葉が当はまる有様であった。斯くて二十九日午前一時過ぎから漸く減水しはじめ夕方までには全町の退水を見た。

中村町の被害

一、浸水面積	三六〇ヘクタール	一、商品類	約七〇万円
一、罹災世帯数	一、六五〇世帯	一、家財類	約二〇万円
一、同 家族数	七、二四三人	一、建築物	(住家) (非住家)
一、負傷者	六〇人	流 失	二二
一、道路破損	二、五〇〇米	全 壊	七五
一、水路 "	二七三米	半 壊	二〇九
			一九四

床下浸水	一五〇	八五	桑	四三、一ヘクタール
床上浸水	一、五〇〇	八五	園芸農産物	六、五 "
階上浸水	五〇〇		其他蔬菜	二、九 "
計	二、四五六	六七〇	計	一二八、五 "
一、農作物			一、農用地	二反
水 稻	五七、三ヘクタール		田	二〇〇反
陸 稻	〇、八 "		畑	二二七メートル
甘 藷	九、四 "		道 路	二七三 "
果 実	二、六 "		水 路	一八 "
杞 柳	五、九 "		堤 防	

第八章 渡川の改修

今回の洪水は増水きわめて早く、荷上げの閉が少なかつたため被害が殊のほか甚しかった。これは町民が洪水に慣れて浸水の要領を知っていたことが大きな禍を来たした。と云うのは従来町内浸水の順序は先づ町内排水溝に溢れた水が(増水によって後川の水位が排水溝より高くなると排水閘を閉鎖するため)小姓町、上町西裏などの低地を浸し、次いで後川が上町、紺屋町、南京町、新町などに流入し、最後に京町、中ノ丁の高所に及んだのであるが、今回は治水工事によって西北から東へかけて後川堤防が完成して市街への浸水を阻んだので、南方の未完成の箇所から急流となって押寄せ瞬く内に京町、中ノ丁以東を呑み、京町、中ノ丁の高所を越して市街の西部に流れ込んだので、天神橋はじめ東西に通じた街路は瀬となって急速に全戸に浸水した。いわば従来の浸水順序が込みこんでいる町民は不意討ちを食ったわけである。然しながらこの大洪水に一名の死者も出さなかつたことは多年の洪水に対する訓練の

賜物である。
 水害後の中村町、それは実に悲惨の極みで瓦は剝がれ壁は落ち、電灯はなく水道は止り、悪臭の屋内の生乾きの座板の上に荒藁を敷いて雨をしのぐ人々、水浸しになった無数の畳、家具、商品、或は家畜の死体が散乱する街路、さながら地獄の図であった。

中村町以外の町村被害表

(町村名)	(浸水面積)	住				家			
		(流失)	(全)	(半)	(床上浸水)	(床下浸水)	(その他)	(計)	
下田町	五〇〇 ^{ヘクタール}	二五	一〇	五〇	七〇〇	五〇	〇	八三四	五〇四
東山村	四一〇	二〇	一二	九	二二〇	三〇	〇	二九一	一五六
後川村	三一〇	〇	〇	一一	一一二	五〇	四九	二二二	二三六
八東村	四二〇	九	六	七	二七〇	一六〇	〇	四五二	四五〇
具同村	三八五	一六	一三	一五	二二〇	五〇	三七	三四一	三六一
東中筋村	六一五	五	八	二七	一七〇	五〇	〇	二六〇	六四四
中筋村	三一五	〇	一八	二九	八八	二二	〇	一五七	二五七

渡川水位表 (※印は工事未施行箇所、△印は工事区域外、無印は工事施行中箇所)

量水標位置	高計水位	昭和十年		明治二十三年		昭和十年洪水位との差
		洪水高水位	昭和十年	洪水推定高水位	明治二十三年	
幹川筋 佐田	一五・二二 ^(米)	一七・〇七 ^(米)	一五・二二 ^(米)	一五・二二 ^(米)	一五・二二 ^(米)	(+) 一・八六 ※
百笑	一一・九七	一二・二一	一二・二一	一二・八〇	一二・八〇	(+) 〇・二四
具同	一一・六五	一二・〇七	一二・〇七	一二・五〇	一二・五〇	(+) 〇・四二
坂本	一〇・四八	一一・五五	一一・五五	一一・二〇	一一・二〇	(+) 一・〇七 ※
井沢	八・五二	九・七三	九・七三	八・五一	八・五一	(+) 一・二二 ※
後川筋 麻生	—	一一・六七	一一・六七	一一・九六	一一・九六	— △
大用寺田	九・六〇	一〇・三一	一〇・三一	九・七二	九・七二	(+) 〇・七一
安並	九・四四	一〇・二三	一〇・二三	九・六三	九・六三	(+) 〇・七九 ※
佐岡	九・〇七	一〇・〇五	一〇・〇五	九・五〇	九・五〇	(+) 〇・九八 ※
中筋川筋 有岡	—	一二・二一	一二・二一	一二・二三	一二・二三	— △
生ノ川	九・六三	一一・九九	一一・九九	一一・八〇	一一・八〇	(+) 二・六三 △
国見	九・三六	一一・八五	一一・八五	一一・九〇	一一・九〇	(+) 二・四九 ※

第八章 渡川の改修

この大試練によって工事計画の変更、あるいは追加となつて、より完璧な改修が行われることになった。しかし、その後の国庫緊縮や太平洋戦争などのため、工事は延期に延期を余儀なくされ、当初の十四力年計画が四十力年を過ぎた現在、なお三十パーセントの工事が残されているという。

それでも、中村旧市街と、その南に続く右山・角崎地区は強固な堤防に囲まれて完全に水害から護られ、渡川西岸の具同地区・後川左岸の東山地区の堤防も完成して急速に市街化している。また、中筋川と本川との合流点の付け替えによって、洪水時の渡川本流からの逆流が防がれるようになり、中筋川沿岸も良田化し、中村市の飛躍的發展に拍車をかけている。